



議会だより

令和元年11月1日



豊かな秋
山本毅氏(上延生)撮影

主な内容

	ページ
9月定例会の概要.....	2~7
一般質問.....	8~12
声くこえ)私のいいたいこと.....	13
議会日誌・編集室.....	14

□編集/芳賀町議会広報常任委員会

□発行/芳賀町議会

〒321-3392 栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020

電話 028(677)6023 FAX 028(677)6057

芳賀町議会ホームページ

<http://www.town.tochigi-haga.lg.jp/menu/torikumi/gikai/index.html>

認定

塩野由子氏を任命



▲古壕秀一氏

□芳賀町教育委員会委員の任命について

令和元年9月30日をもって任期満了となる小

令和元年9月30日をもって任期満了となる古壕秀一氏を引き続き最適任者として任命することを議員全員が同意しました。

同意

□芳賀町教育長の任命について

林久子氏の後任に塩野由子氏(与能)を最適任者として任命することを議員全員が同意しました。



▲塩野由子氏

報告

□公益財団法人芳賀町農業公社の経営状況説明書の提出について

□芳賀町ロマン開発株式会社の経営状況説明書の提出について

両法人の経営状況を説

条例制定

□芳賀町森林環境整備基金条例の制定について

平成31年3月に森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律が成立し、

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、監査委員の意見を付して報告するもの。(質疑なし)

□平成30年度健全化判断比率及び資金不足比率について

小林一男議員

小林隆志議員 (討論なし、原案可決)

条例改正

□芳賀町職員の給与に関する条例の一部改正について

成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律が成立し、公布されたことにより、地方公務員法第16条に規定する欠格条項のうち、第1号「成年被

後見人及び被保佐人」が削除されることから、芳賀町職員の給与に関する条例中、同号を引用する部分を削除するもの。(質疑・討論なし、原案可決)

契約

□工事請負契約の締結について(芳賀変電所受

第4回 芳賀町議会 定例会

の要 概要

令和元年第4回芳賀町議会定例会が9月3日から13日までの11日間の会期で開催されました。第1日目は全議案を上程し、町長から提案理由の説明を受け、監査委員から決算審査の報告を受けました。一般質問は、第3日目に行われ、4人の議員が町政について質問しました。第4日目に平成30年度決算を除く議案の質疑・討論・採決を行い、第7日目に平成30年度の決算についての質疑を行った後、決算審査を常任委員会に付託し、第9日目まで決算審査を行いました。最終日に平成30年度決算を原案どおり認定し、同意案を採決し、閉会しました。

令和元年第4回芳賀町議会定例会提出議案



平成30年度決算を

教育長に古塚秀一氏、教育委員会委員に

変電設備工事

○契約金額

2億9568万円

○契約相手方

宇都宮市大通り四丁目1番18号
富士古河E&C株式会社

社 東日本支社

支社長 我妻隆之氏

(質疑・討論なし、原案可決)

取得

○財産の取得について
(分岐器(溝レール用)の購入)

○契約金額

5799万2千円

○契約相手方

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
新潟トランス株式会社

社

代表取締役社長 石塚

武文氏

(質疑 小林一男議員

(討論なし、原案可決)

変更

○字の廃止及び字の区域の変更について

県営打越新田地区土地改良事業の施行の結果、事業実施後の現況に符合しない字の区域が生じた

ため、字の廃止及び字の区域の変更を行うもの。
(質疑・討論なし、原案可決)

額の決定

○損害賠償の額を定めることについて

令和元年7月10日午後

2時20分ごろ、芳賀町大字上延生地内の交差点において、町職員が町有自動車で右折しようとした際、安全確保のため後退したところ、停止していた後続車と接触したことに対し損害賠償したものに

賠償額は5万6846円で全国自治協会公用自動車事故共済保険で全額対応するもの。
(質疑・討論なし、原案可決)

補正予算

○令和元年度芳賀町一般会計補正予算(第2号)

総額に3億8724万円を追加し、予算総額を96億6764万4千円とするもの。
(質疑 大根田周平議員
(討論なし、原案可決)

○令和元年度芳賀町介護保険特別会計補正予算(第1号)

・保険事業勘定

総額に2401万9千円を追加し、予算総額を15億951万9千円とするもの。

・サービス事業勘定

総額から130万4千円減額し、予算総額を389万6千円とするもの。
(質疑・討論なし、原案可決)

○令和元年度芳賀町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)

総額に440万円を追加し、予算総額を3億2040万円とするもの。
(質疑・討論なし、原案可決)

認定

○平成30年度芳賀町一般会計、芳賀町国民健康

保険特別会計、芳賀町後期高齢者医療特別会計、芳賀町介護保険特別会計、芳賀工業団地排水処理センター特別会計、芳賀町公共下水道事業特別会計、芳賀町農業集落排水事業特別会計、芳賀町祖母井

南部土地区画整理事業特別会計及び芳賀町宅地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について

平成30年度は、第6次芳賀町振興計画の3年目でした。町では、「躍動する芳賀の町 未来に「教育をつなげる」「話題をつなげる」「笑顔をつなげる」「地域をつなげる」の5つの分野に分けられた事業が実施されました。

平成30年度各会計決算の状況

会計別		歳入	歳出
一般会計		79億4,454万5千円	74億8,258万5千円
国民健康保険特別会計		20億1,676万4千円	19億5,454万7千円
後期高齢者医療特別会計		1億6,501万3千円	1億6,033万3千円
介護保険特別会計	保険事業勘定	14億6,525万5千円	14億1,709万2千円
	介護サービス事業勘定	662万7千円	588万9千円
芳賀工業団地排水処理センター特別会計		5,260万6千円	4,798万6千円
公共下水道事業特別会計		2億6,765万8千円	2億5,711万9千円
農業集落排水事業特別会計		1億7,948万9千円	1億7,368万円
祖母井南部土地区画整理事業特別会計		1,067万7千円	1,067万7千円
宅地造成事業特別会計		4億6,282万1千円	4億2,111万8千円
計		125億7,145万5千円	119億3,102万6千円

最小の経費で最大の効果を



▲小林一男監査委員



▲樋田貞夫代表監査委員

本町の財政は、比較的健全に運営されており、各種事業等歳出についても、計数的な過誤もなく、適切で誠実に執行されていきました。また、第6次芳賀町振興計画の3年目として平成30年度の重点施策について事業内容等を確認した結果、おおむね計画どおり良好に執行されていきました。

本町の平成30年度単年度財政力指数は1・05
1、健全化判断比率は、実質公債費比率2・2%、その他の判断比率は該当なし。資金不足比率も該当はありません。なお、自主財源比率は71・8%です。

約1億2184万円増の47億5407万円の収入となりました。財政の根幹をなす町税については、昨年度より

今後、LRT事業、芳賀第2工業団地造成、土地改良事業などの大型事業が本格化して参りますので、なお一層の効率的で堅実な財政運営をお願いします。

借入金である地方債の残高は、一般会計と4つの特別会計で、約49億2577万円で、年々計画的な減少が見られ、執行部の運営の姿勢と努力の跡が見受けられます。

平成30年度の予算執行も健全財政を堅持された町政経営が進められたものと思います。引き続き令和元年度も普通交付税の不交付団体になりましたが、財政的に余裕があるわけではないことを認識し、引き続き新たな財源確保の施策を講じるなど、歳入の確保に努め、最小の経費で最大の効果を生み出すことができるようにお願いします。

平成30年度末の町債(借入金)と基金(貯金)の状況(一般会計分)

項目	金額	町民一人あたり※
町債残高	19億3,009万4千円	約12万3千円
基金残高	26億7,575万9千円	約17万1千円

※平成31年3月31日の人口15,693人で算出。千円未満は四捨五入。

平成30年度に実施した

5つの「つなげる」の主な事業

便利をつなげる

宅地造成事業 4億2,111万円



教育をつなげる

総合情報館図書館運営費 3,429万円



話題をつなげる

ふるさと交流センター管理運営費 5,205万円



笑顔をつなげる

生活習慣病検診費 3,722万円



地域をつなげる

自治振興費 1,743万円



平成30年度決算の主な質疑

大根田周平議員

問 生活拠点に関するまちづくり計画280万8千円の具体的な内容について問う。

答 建設産業部長 下原地区の地区計画の策定のための活動の支援等まちづくり研究会活動のための資料作成や検討会のための資料作成を委託したものです。下原地区まちづくり研究会と連携し、目指すべき将来像を掲げ必要となる整備やまちづくりのルールなどを計画するためのものです。

岩村治雄議員

問 町税、不納欠損1087万1467円の内容について問う。

答 税務課長 不納欠損の内容は財産が無い、生活困窮、町税を課すべき人が不明等の理由のものが55%です。残り45%は滞納から5年を経過し、時効により欠損したものです。合計251名で808期別分です。

小林俊夫議員

問 国民健康保険財政調整基金について、増額した理由は。

答 住民課長 国民健康保険財政調整基金の積立額ですが、平成30年度は制度改革による財政安定化により、保険給付費が増加して

も栃木県保険給付費等交付金の普通交付金が交付されるようになり、剰余金を多く積み立てられたものです。

中村由美子議員

問 芳賀チャンネル制作委託料について、前年度に比べ215万6千円増になっている理由は。

答 企画課長 平成29年度は、宇都宮ケーブルテレビから週4日撮影及び番組編集で来ていただいたのですが、平成30年度は週5日来ていただいたので、その分が上昇したものです。週5日にした理由は、撮影及び編集について町職員の土日の出勤等の負担が増えてきた状況があるためです。

北條勲議員

問 基本技能検定試験の平均点は。

答 こども育成課長 平均点の公表はしていません。受けた生徒には伝えていますが、指導改善のための指標という事で行っている基本技能検定なので、平均点の公表は控えたと思います。指導改善につながっているかも含めて公表できるものについては検討します。

江間田信一議員

問 災害復旧費において不用額が発生している理由は。

答 総務企画部長 災害により、道路、橋りょうが傷んだり、農地のり面が崩れたり等、その復旧を早急に行わなければならないという場合に予算が無いと執行ができません。そのため、予算計上をしています。昨年はそのような災害復旧事業がなかったため、不用額となっています。

岡田年弘議員

問 県営農業農村整備事業調査計画負担金中、市の堀用水44万円の内容について問う。

答 農政課長 鬼怒東部土地改良区が実施する塩谷町市内の市の堀用水の改修工事に伴う流域の負担金になります。平成30年度から32年度まで調査設計を行いますので、その芳賀町分の負担金です。

石川保議員

問 不法投棄対策防止費中、犬猫等れき死回収処理に係る報償費29万5千円の内容について問う。

答 環境対策課長 廃棄物監視員12名に対して、道路上の動物のれき死体を回収した場合、謝礼として商工会の商品券を配布しています。1匹回収するたびに1000

0円、回収物を芳賀地区エコステーションに持っていくとさらに1000円になります。

大根田弘議員

問 町有施設管理中、下高根沢下原町有墓地ブロック塀修繕工事128万円の詳細を問う。

答 環境対策課長 平成23年度の震災により、下原町有墓地のブロック塀が傾いており、ブロック塀の下敷きになった事故をうけ、調査した結果、修繕したものです。ブロック積みを半分にし、軽量化と目隠しのためアルミラフェンスに変更しました。

山口菊一郎議員

問 結婚支援費の業務委託料13万9千円の事業内容について問う。

答 生涯学習課長 出会い創出事業を2回実施しました。1回目は11月3日に県内のラジオ局に委託し、2回目は2月10日に県内テレビ局に委託して行いました。どちらのイベントについても男性は町内在住者を優先して20名募集をし、女性については、地区にこだわりなく20名募集という形で行い、2回とも5組のカップルが成立しました。

常任委員会決算審査

総務・教育民生・産業建設常任委員会は9月9日から11日まで、平成30年度一般会計及び特別会計決算の書類審査と現地調査を行いました。各委員会は、9月13日の本会議において意見を付して決算を認定しました。

総務常任委員会

□書類審査（9月10日）

総務課、企画課、税務課、会計課、議会議務局、監査委員事務局

□現地調査（9月11日）

役場庁舎、祖陽が丘住宅団地、消防センター
第1分団第3部



▲書類審査(税務課)



▲現地調査(役場庁舎)

教育民生常任委員会

□書類審査（9月9日、10日）

住民課、環境対策課、健康増進課、福祉対策課、こども育成課、生涯学習課

□現地調査（9月11日）

町民会館、ドンカメ堆肥センター、エコフレスト（一般廃棄物最終処分場）



▲書類審査(生涯学習課)



▲現地調査(町民会館)

産業建設常任委員会

□書類審査（9月10日）

農政課、商工観光課、建設課、都市計画課

□現地調査（9月11日）

芳賀高西線、祖陽が丘住宅団地、飯島上横線、三日市宮田線、芳賀変電所



▲書類審査(都市計画課)



▲現地調査(祖陽が丘住宅団地)



▲現地調査(祖陽が丘住宅団地)



▲現地調査(消防センター)

□審査の意見または特に留意すべき事項

①当町は、地方交付税の不交付団体である。町財政の健全化は重要であると認識するが、町として何もやらなければ債務残高は減少する。そこで、健全化を意識しつつ、老朽化している町有施設について「公共施設等総合管理計画」に基づき、積極的な予算編成をされたい。

②同一労働・同一賃金を含む働き方改革関連法が2018年6月29日に成立した。同一労働・同一賃金とは、同一企業・団体における正規雇用労働者と非正規雇用労働者との不合理な待遇差解消を目的とするものである。当町においては、全職員223人の約31パーセントが嘱託職員等で占められている。こ

うした現況に鑑み、働き方改革関連法の趣旨を尊重し、待遇差の解消について早急に取り組まれない。

委員長	大根田周平
副委員長	江間田信一
委員	小林 信二
委員	小林 俊夫



▲現地調査(ドンカメ)



▲現地調査(エコフォレスト)

□審査の意見または特に留意すべき事項

①予算の適正な執行に努めた結果、執行率、不用額とも適正であると認められる。

②保健センターが老朽化しているが、利用者の利便性を考え改修に努められたい。

③学童保育が当初の状況から利用形態や重要性が変化している。負担も含め、現況にあった形態への変革を保護者とともに検討されたい。

委員長	小林 一男
副委員長	岡田 年弘
委員	大根田 弘
委員	有坂 隆志
委員	中村由美子



▲現地調査(飯島上横線)



▲現地調査(芳賀変電所)

□審査の意見または特に留意すべき事項

①生活排水処理は河川などの水質保全を目的として、すでに昭和63年から共用開始している農業集落排水事業は、平成15年に完了している。一方、公共下水道事業については、いまだに整備の未着手の地域があり、公共サービスの格差がでているものと思われる。今後は一層スピード感を持って整備を進めるよう努力されたい。

②芳賀温泉ロマンの湯の入館者数は、平成30年度においてピーク時より約8万人減少している。平成26年度の入館料の値上げも一つの要因であると考えられる。ロマンの湯の新しい価値を高め、入館者増を図る必要がある。今後は入館料も含め、施設・運営等の見直しを検討されたい。

委員長	北條 勲
副委員長	山口菊一郎
委員	小林 隆志
委員	岩村 治雄
委員	石川 保

ここが聞きたい 4人の議員が一般質問

一般
質問

第3日目に一般質問が行われ、4人の議員が町政について質問しました。



江間田 信一 議員 (9ページ)

- ① 町政運営の責任者として二期目4年間の町長の基本的な考えとその決意について
- ② 第6次芳賀町振興計画「中期基本計画」の策定について
- ③ 子ども子育て支援について



中村 由美子 議員 (10ページ)

- ① 若い世代が住みたくなる魅力あるまちづくりについて
- ② とちぎ国体に向けての協力体制について



山口 菊一郎 議員 (11ページ)

- ① 芳賀町地域防災計画に基づく避難場所の整備方針について
- ② LRTと連携した交通網と観光誘致について



北條 勲 議員 (12ページ)

- ① 乳幼児液体ミルクについて
- ② 役場敷地の改修について
- ③ 海洋センターについて



一般質問とは



一般質問は、定例会において行われ、議員が町の行財政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求めるものです。質問する議員も、受ける執行機関もともに十分な準備が必要なことから、通告制とされています。

質問時間は、1人につき質問・答弁を含め60分以内とされています。

〈次回の定例会は12月3日からの予定です〉

みんなで議会を
傍聴しましょう

議会は、はがチャンネルでも
放送します。

— 放映時間 —

会議当日 午後8時から
再放送 翌日の午後2時から





江間田信一が問う 二期目4年間の基本的な考えと 決意について

問 どのような姿勢で町政運営に取り組んでいくのかとその決意について伺う。

答 町長 一期目に掲げた、「躍動する芳賀の町を明るく未来につなげる」という町政運営の方針に変化はなく、基本構想に掲げた「5つのつなげる」については、これまでの取り組みを一歩進め、各施策の効果をさらに引き上げていきます。

具体的には、各施策を体系的にまとめ、中期基本計画として今年度中に策定します。2期目の決意は、町民誰もが安心して生活できる、住んでよかったと思える芳賀町を目指し、躍動感あふれるこの芳賀町を持続可能な町として将来につなげていくことです。

第6次芳賀町振興計画「中期基本計画」の策定について

問 ①芳賀町は県内で最高の人口増加率となっているが、その一方で国立社会保障・人口問題研究所の推計結果により、今も多くの町民は人口が9000人になってしまつて不安視しているのが実態である。町から情報提供を行い、町民不安の解消と理解・対応について伺う。

②計画の中には「町民満足度調査」を実施するとあるが、町外から通勤して芳賀町に住まない理由の調査、いわゆる「芳賀町不満度調査」を実施し、町の課題が新たに別な角度から確認できると思うがいかがか。

答 町長 ①国の推計と町の現状に乖離が見られたので、国立

社会保障・人口問題研究所と同じ方法を用い、平成28年から平成30年までの移動率に置き換えて再算定をした結果、2040年の人口推定は1万4067人となり、第6次芳賀町振興計画に定める将来人口と大きな差異がなく、将来人口目標値を変更する必要がないことが確認できました。中期

基本計画策定の進捗状況にあわせて周知していきます。

②不満度調査については、芳賀町を客観的に捉えることができ、地方創生に向けた施策を検討するために有効であると考えますので、調査の実施を検討していきます。

子育て支援について

問 令和元年10月に国が実施する幼児教育・保育無償化に伴い、0歳から2歳児までの住民税課税世帯は制度対象外となることから、子どもを持つ世帯への負担軽減対策を講じる必要があるのではない

か。

答 町長 無償化の対象とならない満3歳未満で住民税課税世帯に対する負担軽減対策については従来から行っている2人目半額、3人目無償という多子世帯の減免を継続していきます。また、今回の無償化に伴い、保育料

に含まれていた副食費は実費徴収となります。これまで満3歳以上で3人目無償の減免を受けていた場合は、保護者負担が増えることとなりますので町としては国の政策により負担増とならないように、副食費の助成を行います。



▲祖母井保育園給食の様子



中村由美子が問う
若い世代が住みたくなる
魅力あるまちづくりについて

問 少子高齢化の中、LRTや工業団地

など大きな事業が進み、若い世代に住んでもらえる大きなチャンス。利便性や環境を考え、①小児科医の誘致、②デマンド交通の現状とミニバス等の検討、③八ツ木の丘公園の整備と今後は。

答 町長 ①町民の要望が多いことは把握しているものの希望する医師がいないのが現状です。引き続き中期基本計画に位置付けていきます。

②現在デマンド交通は、高齢者を中心に身近な移動手段として定着し、芳賀赤十字病院の運行などニーズに応じた運行サービスの改善に取り組んでいます。ミニバス等については、LRT開通に伴い新たな公共交通の導入の取り

組みを進めているところです。

③今年4月に公園の管理が町となり、安全点検の結果、2基の遊具を撤去しました。今後入居者の状況などを把握しながら協議をしていきます。



▲使用禁止になった遊具（八ツ木の丘公園）

問 町内の医院やクリニック等に週に数

回専門医が来てもらえるよう、町として要望できないか。

答 町長 町の医療研究会に対応できる

かお願いしていきます。

とちぎ国体にむけての協力体制について

問 とちぎ国体では公開競技がパワーリフティング、デモスポーツが婦人バレーボールに決定された。どのよう

に盛り上げ実践していくか。第一・第二体育館の今後は。

答 教育長 公開競技は、開催準備や運営を競技団体協会が主体となり、町はそれに協力し、スポーツ振興促進のPRや観戦企画などを進めていきます。

デモスポーツは、関係団体と協議した上で決定していきたいと考えています。

芳賀町体育館（第二）は、築50年を迎え老朽化が進み、道路計画もあり、軽微な修繕で維持管理しています。施設の廃止、建てかえ等については検討してい

きます。第二体育館は、とちぎ国体で使用するため、適切な管理を行い安全・安心に利用できる施設として維持していきます。

他市町では、国体に向けて実行委員会を立ち上げている。

問 他市町では、国体に向けて実行委員会を立ち上げている。

芳賀町は全国から集まる方々におもてなしや協力体制をどう作っていくのか。

答 生涯学習課長 今年の茨城国体を視察し、方向性について検討したうえで関係団体と協議していきます。

県では今年、強化育成選手としてとちぎ国体にむけ793名、とちぎ大会に向け196名を認命した。芳賀町の選手の把握は町としてどう応援していくのか。

答 こども育成課長 小学生4名、中学生5名を把握しています。

答 生涯学習課長 町では、強化選手の手

支援制度はないため、広報誌や芳賀チャンネルで選手を紹介し、応援体制を整えたいと思っています。



▲とちぎ国体



山口菊一郎が問う

芳賀町地域防災計画に基づく避難場所の整備方針について

問 町内の指定避難場所11ヶ所の整備の

必要性判断と各施設の現状について、整備が必要と判断しているなら、整備計画について伺う。

答 **町長** 指定避難場所それぞれの耐震

化や通信施設、非常用電源などの施設整備の現状や必要性、今後の整備計画について、芳賀町地域防災計画は災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることから、被害を最小化する「減災」を基本方針としており、町民の生命と財産を守ることが目的としています。指定避難場所の主な施設整備等は必要に応じ整備を行います。財政上の制約もある中、長期的視点により施設の整備計画と合わせ効果的に進めていきます。

また、避難場所の機能を補完できるよう関係機関や企業との災害協定を締結しています。

問 指定避難場所の一つである生涯学習

センター水橋分館について、町は指定避難場所として、また地域における町民の活動の場

所として必要な施設であるとして、中期基本

計画策定において優先度や財政計画を考慮しながら方向性を見定めるとある。今年度と今後の方向性について予定や進捗状況を伺う。

答 **教育長** 水橋分館

は、各種講座、生きたがいサロン、総合検診等、昨年は年間6000人に利用されていますが、老朽化、耐震性に問題があります。今後の方向性を探るため、利用状況等情報を



▲生涯学習センター水橋分館

収集し分析を行ってきました。今年度、中期基本計画策定にあたり関係各部門の担当者による幹事会をスタートさせ、問題点の洗い出しや町民のニーズを加味し、施設の在り方を慎重に検討していきます。

LRTと連携した交通網と観光誘致について

問 ①工業団地内の循環バス、あるいは

町内への循環バスにつ

いての整備計画、方針

等について②観光誘客

に向けた町内観光名所

等への循環バス、レンタサイクル等の整備、

また、案内ボランティア

の配置等の整備計画、

方針について伺う。

答 **町長** ①工業団地

内循環バスについては平成28年5月に策

定した「芳賀町都市交

通マスタープラン及び

都市・地域総合交通戦

略」においてLRTと

合わせ整備するとあります。具体的整備計画

通導入に向けた取り組みを進めているところです。

②観光誘客における町内観光名所へのアクセ

スや案内方法について、LRT開通に伴い観光

客の増加が見込まれます。観光ルートの創造

やレンタサイクル等の

二次交通整備が必要と

考えています。観光誘

客を進めている先進事例を参考にLRTを核

とした観光振興の検討

を関係機関と進めてい



▲LRTポスター



北條勲が問う
乳幼児液体ミルクについて

問 町に液体ミルクの備蓄と今後の計画

は。

答 **町長** 液体ミルクの備蓄はありません。

町では自分の身は自分で守ることを基本として、約3日分の食料や水などを自ら備えるよう町民にお願いしています。

また、町内に液体ミルクを販売している医薬品店があります。災害時に乳幼児に必要な物資を提供していただけるよう災害協定の締結を進めます。



役場敷地の改修について

問 今の役場は33年前に整備された。下

記の3点を改修すれば使い勝手が良くなると思うが町の考えは。

①役場と情報館の間に横断歩道があり、渡るとき遠回りになるので縁石の撤去は。

②東側駐車場で毎年町民祭が開催され、近年では消防団の点検や操法大会にも使用され多目的駐車場にするため、

段差のある歩道の撤去は。

③税務課の南側駐車場に西側町道から直接入れるようには。

答 **町長** ①役場敷地内に縁石を撤去しないで横断できるようにします。

②東側駐車場は単なる駐車場の利用以外に平成27年度からJRバスの役場敷地内乗り入れが開始され、歩行者と

車両を明確に区分するためにも段差は安全上必要ですので撤去する必要はないと考えています。

③税務課南側の出入りは以前はありましたが、平成17年度に役場西側の町道拡張工事の際に、

交差点での赤信号を回避して敷地内を通り抜ける車両を防ぐため塞いだ経緯があり、庁舎敷地内と交差点付近の

とから、指定管理者の判断により、今年4月から2名以上での滑走を禁止しました。これにより、事故の発生を予防し、安全に施設を利用できる措置です。

芳賀海洋センターについて

問 海洋センターのスライダーは身長

120cm未満のお子さんは保護者同伴なら利用できましたが、ルール改正後は保護者同伴でも利用できないが理由は。

答 **教育長** 平成26年に親子で一緒に滑

走した際に、子どもが足に怪我をする事故が発生。日本ウォーター

スライド安全協会が作成した「ウォーターズライドの運行維持管理・設計の手引き」において、一人ずつの滑

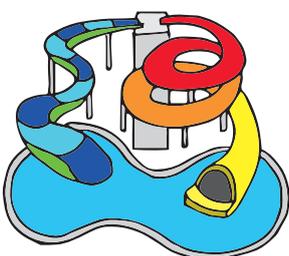
走が推奨されているこ

安全確保を第一に考え、新たな出入口の設置は不要と考えます。



▲役場駐車場縁石

答 **生涯学習課長** 文書は8月16日付けで確認しています。



問 利用者が不利になると思う。ルール改正文書の確認は。



田崎 裕介さん
(与能)

今後の芳賀への期待

平成から令和になったように、近年の芳賀町も変化があったように思います。特にLRTの開通により交通の利便性が高まり、より住みやすい町になる事を期待しています。また、現在は芳賀工業団地付近までの停留場のため、祖母井方面への開通などで、よりLRTが身近に感じ、芳賀町民が安心、安全かつ便利に運用できる交通機関になるように推進していただければと思います。

また、子育て世代としても、芳賀町では親子で楽しめるイベントが充実しています。各行政区ごとでも習い事や子供向けのイベントなどが増えると、より一層若い活気がつくまちづくりになるのではと思います。

今後もより良い町になれるよう、個人としても芳賀町に貢献できるよう努めたいと思います。



山澤 ともさん
(八ッ木)

もっと子育て世代の集まる芳賀町に

我が家が芳賀町に引っ越してきて8年になります。以前は他県の政令指定都市に住んでいましたが、そちらに比べ格段に子育てがしやすいと感じています。例えば、とんがり教室など子ども向けの教室が盛んである事、情報館では子ども達が本に親しみを持ってイベントが多く開かれ、また役場の皆さんがいつも笑顔で接して下さる事等良い所がたくさんあります。個人的にはさらに子育て世代に魅力ある町にするにはデマンド交通を活用すると良いと思っています。例えば、LRTのターミナル駅との交通に活用したり、子どもの習い事送迎等により気軽に利用できるようにすれば「子育てしやすい町・芳賀町」の大きな魅力の一つになると思います。ぜひ子育て世代にPRし芳賀町の発展につなげてほしいと思います。



廣田マリ子さん
(西高橋)

もっと伝えよう日本の昔あそび

機会があり、東京おもちゃ美術館主催のスタディツアー「ミャンマーに日本の遊びを届けに行こう」に参加し、「お手玉」と「竹返し」のコーナーを担当しました。でもどちらも練習中で下手な私。英会話はできないし不安でしたが始めてみると、私のわらべうたに合わせてみんなで輪になってお手玉を回す。竹を手の甲に何本乗るかを競うなどの簡単な遊びで大変な盛り上がり。ことばが通じなくても沢山の子どもたちと遊ぶ楽しさを共有できたことに感激しました。日本では忘れ去られようとしている昔あそびが、外国でのコミュニケーションツールとして役立つことを実感したところで

す。心の発達や手先の器用さを養うにも良い「昔あそび」。ほそぼそですが絶やさないように伝えていきたいと思っています。

議会日誌

8月

- 1日・決算審査（～8日）
- 2日・国道123号改修促進同盟総会
- 3日・大嘗祭悠紀地方ト定豊稷清祓祭
 - ・ロマン花火2019
- 10日・生涯学習講演会
- 20日・例月現金出納検査
 - ・芳賀中部上水道企業団例月出納検査
- 26日・とちぎの道現場検証
 - ・議会運営委員会
 - ・議員全員協議会

9月

- 2日・芳賀郡市町議会議長会定例会
 - ・芳賀広域行政事務組合議会定例会
- 3日・第4回芳賀町議会定例会（～13日）
 - ・議会広報常任委員会
- 5日・総務常任委員会
 - ・教育民生常任委員会
 - ・産業建設常任委員会
- 7日・芳賀中学校体育祭
- 8日・芳賀郡市民体育祭
 - ・スポレク祭
- 13日・議会運営委員会
 - ・議員全員協議会
- 14日・各小学校運動会
- 20日・例月現金出納検査
 - ・芳賀中部上水道企業団例月出納検査
- 25日・芳賀中部上水道企業団定例会
 - ・芳賀中部環境衛生事務組合定例会

10月

- 1日・宇都宮茂木線建設期成同盟会総会
- 2日・戦没者慰霊祭
- 4日・芳賀町工業地連絡協議会30周年式典祝賀会
- 8日・産業建設常任委員会行政視察
 - （～9日・福島県南会津町）
- 9日・芳賀郡市町議長会正副議長行政視察
 - （～11日・長崎県、福岡県）
- 16日・議会広報常任委員会
- 17日・教育民生常任委員会行政視察
 - （～18日・新潟県燕市）
- 21日・例月現金出納検査
 - ・芳賀中部上水道企業団例月出納検査
- 24日・議会広報常任委員会
 - ・総務常任委員会行政視察
 - （～25日・群馬県桐生市）
- 28日・第2回県町村議会議長会議・研修会
- 31日・町シニアクラブスポーツ大会

町議会を 傍聴して

稲葉 アサノさん（上延生）



私たち祖母井婦人会は、9月5日町議会の「一般質問」を見学研修しました。議員並びに町職員の皆さまの毅然とした態度と、静寂なる議場内に心が洗われるような思いで開会の時を待ちました。

初当選議員からの身近な質問に対して、見目町長はじめ町職員の的確な答えには身を乗り出して耳を傾け、有意義な時間を過ごすことができました。今後の躍動するまちづくりに期待いたします。

編集室

今年も災害の多い年となりました。猛暑、長雨、台風と次々と日本列島を襲いました。被災された地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。幸いにも芳賀町は大きな被害もなく、順調に秋の収穫作業が進められたようです。近年、稲刈り作業は、コンバインと田区の大形化等により時間短縮が進んでいます。しかし、農地、農作業の受委託が進み、担い手農家へ集約されているため、就農人口は

減り続けています。田区を整備する土地改良事業は作業効率化に欠かせない事業であり、耕作の受委託が進めばなお一層求められると思います。受託する農業者はなかなか増えてこないようです。これらを考えると、今後一層の法人、共同組織育成、拡充が必要となってくる事と思います。

■議会広報常任委員会

（副委員長 山口菊一郎）
 委員長 岡田 年弘
 副委員長 山口菊一郎
 委員 江間田信一
 委員 小林 信二
 委員 小林 俊夫



▲ハートなげやき(役場駐車場)